

産学官連携活動の実用化事例

介護、医療従事者の負担を軽減するベッドセンサー

概要

・この成果により解決が図られた現在社会が直面する課題
介護施設や高齢者施設において、夜間の職員の確認の負担が課題となっている。

・成果
千葉大学とミネベアミツミ株式会社は、共同研究により、高精度センサーをベッド脚に設置し、非接触・非侵襲（苦痛を伴わないこと）で体動や離床を検知することができる新しいシステムを開発し、製品化した。これにより、介護施設の職員の夜間の見回りの負担大幅に軽減された。

・実用化まで至ったポイント、要因
千葉大学とミネベアミツミ株式会社が連携を取って製品化に当たった課題抽出、抽出した課題を解決する手段を検討した。

・研究開発のきっかけ
ミネベアミツミ社の担当者が、本分野に詳しい専門家を調査・探索した結果、本学の研究者かつ現役医師が適切であると判断し、当該研究者に技術相談を行った。

・民間企業等から大学等に求められた事項
千葉大学の医師に、医療に携わる者としての知見の提供を求められた。

・技術の新しい点、パフォーマンスの優位性
ベッドへ後付け可能な荷重センサーの測定情報を情報処理することにより、ベッドで寝ている対象者の体動、呼吸の回数や深さを検出することができる。

図・写真・データ



ベッドセンサーシステム（上）とベッドセンサーを取り付けたベッド（下）

- ・ファンディング、表彰等
- ・参考URL

参考URL：https://www.minebeamitsumi.com/news/press/2015/1190118_7562.html